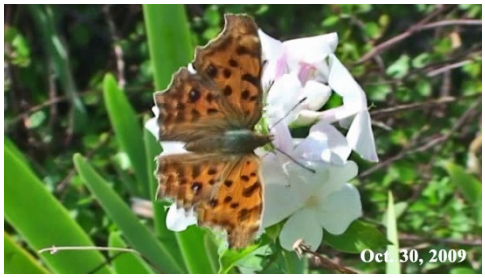
キタテハは北海道西南部から九州までごく普通に見られる種なのに、高砂市松波町周辺の身近ではきわめて珍しいチョウである。筆者は 2008 年11月12日、高砂市西畑4丁目の花畑を訪れたこのチョウに初めて高砂市内で出会い、2009 年の秋にも同じ花畑にやってきた個体を観察している。里山の自然が残る加古川市志方町方面でなら比較的みる機会が増えるが、ヒメアカタテハほどには生息地でも個体数が多くはない。松波町近辺でめったに見られない理由は、チョウの幼虫が食べて育つアサ科のカナムグラという植物が近隣に自生していないからである。この植物は通常、原野や路傍、河原などの荒地に、強靭なつたを絡み合わせて地肌一 面を覆うようにはびこり、茎から葉柄にかけて鋭いトゲもあって、農家の人たちにとってはやっかいな刈り込みの対象となっている。したがって、ヒメアカタテハが食べるヨモギとちがってチョウの食草としては決して多くないわけで、そんなキタテハが 10月下旬から11 月半ばに西畑で 2 年連続して観察できたのはまさにミステリーで、一体、どこで発生して花畑まで飛んできたのか長いあいだナゾであったが、2018 年 10 月に加古川河川敷の河口付近に大群落のあることがわかり、その場所で多くのキタテハが発生していることも分かった。それでも西畑までは 1km 以上は離れており、あとで触れる、本来生息していない八重山諸島などでも稀に見つかることから、このチョウは特に秋型はかなり遠い距離を飛んで活動している可能性が考えられる。



キタテハにもキタキチョウなどで紹介した季節型があり、夏型と秋型の二つの変化がみられる。9－10月に発生した秋型がチョウのまま冬を越し、越冬した母チョウが産んだ卵から発生するのが夏型で、加古川では5月頃から夏型が見られる。色がきれいなのは秋型で、夏型が淡白でやや黒ずんだ黄色であるのにくらべて、より濃い赤みを帯びた茶褐色となる。羽裏の地色も夏型が薄い黄色であるのに対し濃い赤褐色模様となり、後翅裏にみられる英語の「C」に似た模様がより鮮明となり見る角度によって金色に輝いてみえる。信州や東北、北海道などの夏場涼しい地方には近縁種のシータテハというチョウがいて、近畿圏や中四国では標高の高い山地性のチョウとなるが、そのチョウの後翅裏面にも明確に英文字 C と読み取れる銀色の模様があり和名はずばりシータテハ。ではキタテハの C 文字は無視されたのかというと、実はラテン語からなる学名ではキタテハ：*Polygonia c-aureum*（金色のC）、シータテハ：*Polygonia c-album*（白いC）と微妙な色調を区別していて、キタテハの方が忠実に金色を反映させた格調高い命名になっているのが面白い。*Polygonia* はギ

Aug.26,1967 京都市修学院
キタテハ 夏型

Nov.12,2008 高砂市西畑
キタテハ 秋型

裏面

Aug.22,2008 長野扉峠
シータテハ

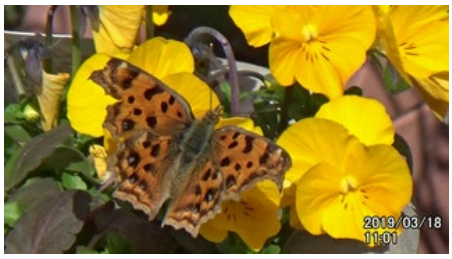
裏面

Copyright© 1998- Soft House JUMP. All rights reserved.

リシア語の*Poly*＋*gonia*＝“多くの角のあるもの”という意味で、凹凸の多い羽の形を表現している。ちなみに銀色文字がLと読める近縁のチョウもいて学名は*Nymphalis vau-album*でLとの明記はないが、和名はLを反映させたエルタテハとなっている。キタテハはシータテハよりは温暖な場所を好み、徳之島以南にはカナムグラがないため沖縄や八重山地方には定着していない。それなのに稀に西表島などの亜熱帯地域をキタテハが訪れた記録があり、それらが9月中下旬から10月であることから季節風に乗って移動したものと推測され、その活動範囲にはいぜんナゾが残る興味深いチョウである。

Mar. 18, 2019　越冬明けのキタテハ *Polygonia c-aureum*

所用で出かけようとした途端、おとなりのKさん宅の玄関先に咲く花々をキタテハが訪れているのに気づき、急ぎビデオカメラを取りに戻る。名前がわかるビオラの花蜜を求めるようすを記録し、名前がわからない花へと移ったところも記録しておく



Oct. 3, 2018　サイクリング Ser.5 は加古川河川敷

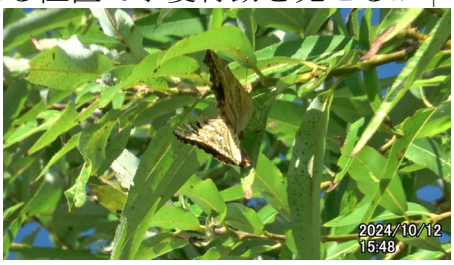
キタキチョウの季節型の調査を目的として加古川河川敷をサイクリング。メドハギの多い路傍のチェックを始めた途端、褐色の後翅にc-aureum文字がくっきりと目立つ秋型キタテハの♂がみつかる。周辺をよくみれば何とこれまで全く気付かなかったカナムグラの群落があり、ベニシジミが

休息中。と、そこに明らかに鱗粉の色あせたタテハチョウがやってくる。ヒメアカタテハかそれともキタテハか。止まったところに駆け寄ると、疲れ果てた様子の夏型のキタテハで、その姿を接近して記録しようとすると、♂・♀の確認もできないうちに飛び逃げる。しばらくその飛翔を追ってみたが、ついにはどこかへと消えてしまう。

Oct. 12, 2024　夏型の遅い記録、そして意外なヒメアカタテハの誤求愛

加古川河川敷でコムラサキを観察中、ずいぶん低いところを飛ぶタテハが現れてコムラサキとの絡みも見るが、止まったところに近づくと10月半ばでは珍しい夏型のキタテハだ。カナムグラが群生するこの場所に産卵目的でやってきた♀だと思われるが、産卵行動はみられない。

コムラサキのじっとしていた♀が何らかのはずみで飛び出すとすかさず♂が絡む。交尾を求めて絡みの飛翔が始まり、枝葉が重なる位置で求愛行動を見せるが♀が受け入れる様子はない。続いて別の絡み2個体が、やはりカワヤナギの葉の茂みへと潜り込むのでビデオカメラをズームアップして確認すると、何と先ほどのキタテハにいつの間に現れ



Copyright© 1998- Soft House JUMP. All rights reserved.

たのかヒメアカタテハが誤求愛を迫っていることがわかる。あきらかに尾端をキタテハへとまげて迫る様子がみられるが、このアピールが受け入れられるはずはない。

Copyright© 1998- Soft House JUMP. All rights reserved.